

4-1 将来ビジョンの実現に向けた公共空間デザイン戦略

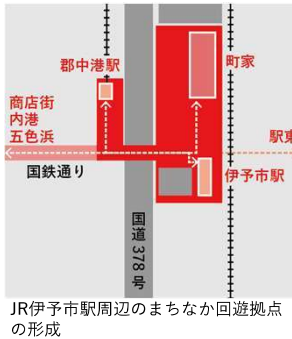
公共空間デザイン戦略の方針

「まちなかと海を結ぶ軸」を日常的に人が集うまちの骨格として再編し、人が居る風景を広げていく

ステップ①

まちの玄関口であるJR伊予市駅周辺を、施設の連携によりまちなか回遊の拠点に変えていく

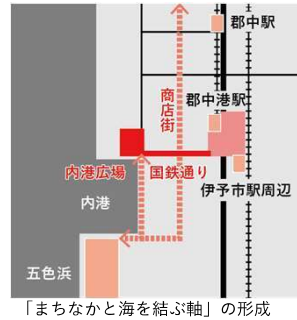
- JR伊予市駅周辺は2駅が近接する交通拠点です。
- WSで地域のみなさんと議論した郡中港駅前広場は、市と伊予鉄の連携により、まちの待合場所、まちなか回遊の拠点として再整備が進められています。
- 今後はJR伊予市駅周辺を、西口広場の再整備や町家との連携を含めて、地域のみなさん、関係者と協議しながら、まちなか回遊の拠点形成に向けて検討していきます。



ステップ②

内港をまちなか回遊の拠点、国鉄通りをウォークアブルな街路に再編し「まちなかと海を結ぶ軸」を形成

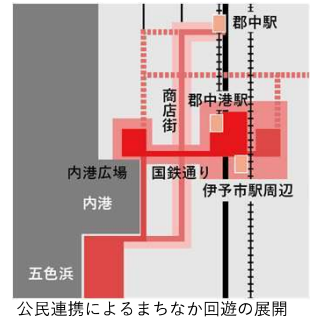
- 内港は、駅から訪れた人が最初に海と出会う場であり、貴重な地域資源である五色浜へ回遊を広げる上でのアンカーとなり得る場です。内港を海側へつながるまちなか回遊の拠点として再編します。
- 合わせて国鉄通りのウォークアブルな街路に再編を検討し「まちなかと海を結ぶ軸」の形成を図ります。
- 「まちなかと海を結ぶ軸」の形成の波及効果として、五色浜や商店街への人の流れをつくります。



ステップ③

「まちなかと海を結ぶ軸」をまちなか回遊の骨格として公民連携で歩いて楽しい地区形成を図る

- 「まちなかと海を結ぶ軸」の人の流れを強化すべく、公民連携による沿道建物のリノベーション等による活性化や歩きやすい道路空間整備など、歩いて楽しい回遊できる地区形成を目指します。
- 公民連携の取組みを広げ、五色浜や商店街、駅東の住宅街などに人がいる風景を広げていきます。



4-2 ロードマップ（案）

- 将来ビジョンを実現していく、公共空間デザイン戦略の3つのステップを踏まえ、事業戦略図とスケジュールから構成されるロードマップ（案）を示します。
 - 現在工事が進められている郡中港駅の駅舎（※）、駅前広場の整備に加え、今後はR8年度から都市再生整備計画（都市構造）の第III期事業としてJR伊予市駅の駅前広場・駅舎をはじめとする事業を進めていく予定です。
- ※郡中港駅の駅舎は伊予鉄道による事業であり、市の事業である駅前広場と連携しながら設計・施工が進められています。

